

平成 30 年度 第 2 回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会 議事録

1 日 時 平成 30 年 7 月 13 日（金曜日） 午後 2 時から 4 時 05 分まで

2 場 所 長野市民病院 2 階 市民健康ホール

3 出席者

（出席委員）

田中 榮司	委員長
小口 壽夫	委員
小林 邦一	委員
坂口 直子	委員
柳原 静子	委員

（委員以外の出席者）

池田 宇一	（地方独立行政法人長野市民病院理事長）
平井 一也	（同 理事）
藤澤 和子	（同 理事）
市川 専一郎	（同 理事）
内川 利康	（同 事務部副部長）
渡辺 敏明	（同 企画財務課長）
福島 孝志	（同 総務人事課長）

（事務局）

竹内 裕治	（長野市保健福祉部長）
小林 祐二	（長野市保健福祉部医療連携推進課長）
小林 雅裕	（同 医療連携推進課長補佐）
松嶋 和彦	（同 医療連携推進課係長）
相澤 優充	（同 医療連携推進課係長）

4 議 事

（1）平成 29 年度の財務諸表等について（報告）

- | | |
|----------------|----------|
| ・平成 29 年度決算の概要 | 【資料 1-1】 |
| ・財務諸表等 | 【資料 1-2】 |
| ・事業報告書 | 【資料 1-3】 |
| ・監査報告書 | 【資料 1-4】 |

（2）評価等の進め方について

- | | |
|----------------------------------|----------|
| ・平成 29 年度及び中期目標期間の業務実績評価の進め方について | 【資料 2-1】 |
| ・（地独）長野市民病院の業務の実績に関する評価実施要領 | 【資料 2-2】 |

(3) 平成 29 年度の業務実績に関する評価について

・平成 29 年度業務実績報告書

【資料 3-1】

・平成 29 年度業務実績自己評価一覧

【資料 3-2】

(4) 中期目標期間の業務実績見込みに関する評価について

・第 1 期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間業務実績報告書

【資料 4-1】

・中期目標期間業務実績自己評価一覧

【資料 4-2】

5 その他

○ 開 会 午後 2 時

(事務局)

ご案内の時間となりました。委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠に有難うございます。

本日は、岩野委員がご都合により欠席されていますが、地方独立行政法人長野市民病院評価委員会条例第 7 条第 2 項の規定で定めます定足数を満たしておりますので、ただいまから、平成 30 年度第 2 回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を開催させていただきます。

なお、本日の会議につきましては、4 時頃の終了を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の委員会につきましては、公開で行い、議事録調製のため、録音させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、会議に先立ち田中委員長からご挨拶をいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

(田中委員長)

皆さん暑い中ご苦勞様です。地球環境を守るためにも今日はネクタイをしないで、司会を行います。よろしくお願いします。今日は議題が多いので、早速始めたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

次に、議事に入ります前に、前回会議の議事録の確認をさせていただきます。既に資料とともにお送りしてございますが、まず事務局から議事録作成に当たり調整させていただいた部分について説明させていただきます。

7 ページの下の方、柳原委員さんのご質問「救急搬送時の選定療養費」の部分ですが、再度確認してみますと、質問と回答に微妙な食い違いがございました。

市民病院に確認をしたところ「救急車で搬送された場合は選定療養費を徴収しない」というこ

とですので、議事録には、市民病院の回答をそのように表記させていただきましたので、ご了承願います。

それでは委員さんから修正事項等がありましたら、お願いします。

異議なし

次に、本日も審議いただく、平成 29 年度の業務実績評価につきましては、先の地方独立行政法人法の改正で、評価委員会の固有事務でなくなり、市長が評価する形に改められましたが、評価に当たっては専門的な視点による意見をお聞きする必要があります。

ついては、評価委員会条例第 2 条第 1 項第 2 号の規定に基づき、本件を評価委員会へ諮問させていただきますので、保健福祉部長から委員長へ諮問書を伝達いたします。

それでは、部長お願いします。

諮問

(事務局)

それでは会議事項に入らせていただきます。

評価委員会条例第 7 条第 1 項の規定によりまして、委員長が議長となりますので、ここからは田中委員長に議事の進行をお願いいたします。

(田中委員長)

最初の議題は、「(1) 平成 29 年度の財務諸表等について」ですが、議事に入る前に事務局から発言を求められていますので、お願いします。

(事務局)

財務諸表等に関する議事について、評価委員会での報告事項として取り扱いについて説明

(田中委員長)

それでは、「(1) 平成 29 年度の財務諸表等について」長野市民病院から説明をお願いします。

(市民病院)

資料 1-1 ～ 4 について説明

(田中委員長)

ありがとうございました。

それでは、「(1) 平成 29 年度の財務諸表等について、ご質問等がありましたらお願いいたします。

(小林委員)

予算額に対して決算額が大きく違う場合は、理由を説明できるように分析をしてください。

資金がなくて借りているなら分かりますが、70 億の預金があるのに 2 億 4,800 万円の利益より多い 2 億 8,400 万円の利息を払っています。借入金を減らすようなことはできないでしょうか。

(事務局)

早期償還をした場合、それに伴うペナルティを支払うため、支払う額はほとんど変わらなくなります。本来であれば繰上償還ができればいいが、国では認めておりません。

(小林委員)

長野市は毎年起債をしています、その分を市民病院の余剰資金で賄えないでしょうか。

(事務局)

長野市が運営費負担金を支払っている状態では、地方財政法や財務規則により市民病院から資金を借りることができないと財政課から聞いています。

(田中委員長)

市民病院はどこからお金を借りていますか。

(事務局)

市民病院から支払相当額を長野市が受け取り、長野市が起債分を償還しています。

(市民病院)

現金の 70 億について、退職引当金の積み立て部分が 35 億円になります。

(田中委員長)

資料 1－1 で収支計画では、運営費負担金が 1,316 百万円とあり、資金計画では 1,489 百万円とあるが、その差は何ですか。

(市民病院)

収支計画では、営業収益に運営費負担金収益が 1,316 百万円あり、営業外収益に運営費負担金収益が 173 百万円と記載が 2 か所に分かれております。

(田中委員長)

ほかに何か、ございますか。ないようですので、次の議題に参ります。

「(2) 評価等の進め方について」事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

資料 2-1 ～ 2 について説明

(田中委員長)

ありがとうございました。委員の皆様からご質問等がありましたらお願いいたします。

(田中委員長)

次の「(3) 平成 29 年度の業務実績に関する評価について」事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料 3-1 をご覧ください。

これは、6 月 30 日に長野市長宛てに提出された「平成 29 年度業務実績報告書」でございます。

また、資料 3-2 につきましては、法人の自己評価を一覧表にしたものでございます。

先ほどご説明しました「評価実施要領」に基づき、この報告書に沿いまして、中項目ごとの評価をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

(田中委員長)

ありがとうございました。

審議の進め方ですが、まず、長野市民病院から一括してご説明いただきます。

その後、中項目ごとに委員の皆様からご質問とご意見をいただき、評価委員会としての評価点を提示するようにしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、長野市民病院から説明をお願いします。

(市民病院)

資料 3-1 ～ 2 について説明。

(田中委員長)

ありがとうございました。

それでは、中項目ごとに確認をしてまいります。

はじめに、6 ページの「第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 市民病院が担うべき医療」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

(坂口委員)

「(5) その他の政策的医療」について 19 ページの時間外の小児救急の夜間初期救急において、前年比 77.9%とかなり下がっていますが、近隣の医療体制が整ったためですか。

(市民病院)

時間外の小児救急については、周辺の医療機関をみても、全体的に減少傾向となっております。また、長野赤十字病院が小児夜間救急診療を始めるなどして、患者の流れが変わった可能性もあります。

(小口委員)

市民病院は高いレベルにいるので、そこから更に上を目指すのは大変だと思います。ある項目では高い評価でも、他の項目で低いと全体的に平均化されてしまうので、どのように評価するのか難しいと感じています。

(小林委員)

市民病院の社会における一般的な評価は、専門の評価機関が行えばいいのであって、市民病院がより上を目指すには、ほかの病院と比較してもあまり意味はなく、病院独自の評価をすべきだと思います。

(田中委員長)

23 ページの「2 患者サービスの向上」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

28 年度と比較して 3 から 4 に評価が上がっている 25 ページの小項目「(2) 快適性及び利便性の向上」の「グッドスマイルプロジェクト」は、どんなプロジェクトですか。

(市民病院)

啓発ポスター、朝の挨拶運動、接遇研修などの接遇レベルの維持・向上を目的としたプロジェクトを「グッドスマイルプロジェクト」と呼んでいます。

(小口委員)

戻りますが、18 ページの「(4) 高齢者等に配慮した医療」については、市民病院は地域包括ケア病棟の設置などを行っており、評価を「5」にしてもいいのではないでしょうか。

(柳原委員)

28 ページの「(4) 情報提供の推進」が去年と比べて評価が下がりましたが、市民としては情報提供が大切だと思います。

それと、21 ページ「(7) 災害時対応」について、水害などの災害が多いので、市民病院がどのように対応するのか気になりました。

(田中委員長)

「(4) 高齢者等に配慮した医療」については、実績を考慮して「5」とするのがいいと思います。また、災害時とは大規模災害を想定していると思いますが、水害についてはいかがですか。

(市民病院)

市民病院には地下室がないため、水害については、機材等が水害に遭いにくい特徴があります。

(事務局)

「市との連携により地域の防災体制の中で拠点としての役割を担うべく、災害対応等への積極的な協力を努める」と中期計画に策定しています。

(田中委員長)

29 ページの「3 医療に関する調査及び研究」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

よろしければ、30 ページの「4 医療提供体制整備」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

以前の柳原委員さんのご意見で、情報ラウンジの段差の話がありましたが、対応しましたか。

(市民病院)

情報ラウンジの奥の階段を下りた所に、飲食できる場所があります。スロープを付けるには急になりすぎるので、階段を下りる手前に飲食できるスペースを設けました。

(田中委員長)

30 ページの「(1)地域医療機関等との機能分担と連携強化」は、他の医療機関との連携はできていますか。

(市民病院)

疾患別に機能分担しています。例えば、がん患者なら市民病院で、良性なら他の病院とか、尿管結石の石を衝撃波で砕く場合は、他の医療機関へ紹介したりしています。

(田中委員長)

40 ページの「5 信頼性の確保」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

よろしければ、43 ページの「第2業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 業務運営体制の確立」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

前年に比べると評価が3から4に上がっています。理由は、何ですか。

(市民病院)

昨年は初めての評価でしたので、P D C A（目標による管理と評価の仕組み）を職員に徹底し管理するのが手探り状態でしたが、28 年度後半から目標指標の管理が定着して 29 年度からは一年を通じて実践できたことによる自己評価となります。

また、企画力・実行力の強化については、平成 29 年 4 月から専門性を持った職員を採用したほか、職員の適切な人事配置の検討を行いました。また、経営企画室の設置の準備などをして将来のステップアップに結びました。

(田中委員長)

47 ページの「2 働きやすい職場環境づくり」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

(小林委員)

不満があると離職率に現れると思いますが、市民病院はいかがでしょうか。

(市民病院)

市民病院の看護師の離職率は、全国的な数値より低くなっております。

(田中委員長)

49 ページの「第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 1 経営基盤の確立」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

(小林委員)

目標を概ね達成したということですが、一般企業会計からすると、目標が 5 億 5,600 万円で結果が 2 億 4,800 万円で半分以上となれば、概ね達成したという範疇に入りますか。それとも、他の指標も考慮しての評価ですか。

(小口委員)

自治体病院は、経営収支が 1 0 0 %（黒字）超えれば、概ね評価できると思います。

(小林委員)

目標値を定めたのなら、目標値に対する評価とすべきでしょう。目標が高すぎたのであれば、今後修正していけばいいと思います。

(事務局)

対予算で比較しますと小林委員のご指摘のとおりとなります。しかし、28 年度に診療報酬改定、30 年度にも診療報酬改定があり、病院からすると単年度の収支予測が難しかったことに加え、公

立病院で経常収支100%超えるところが少ない中で、市民病院が頑張っている点を評価したいと思います。ただ、評価の視点を一つにするという意見は、3年間の中期計画の中では難しい面もあります。

(小林委員)

しっかり評価の視点を合せておかないと、次の中期計画でも同じようになってしまいます。

評価の捉え方として、決めた目標に対して評価する方法と、想定外の事態で実績と目標が離れた場合に、その説明をして評価する方法があります。考え方を統一したほうがいいです。

(事務局)

今後の参考にさせていただきます。

(小口委員)

目標には届きませんでしたが、全体的な判断として評価する方法がいいと思います。

市民病院へお聞きしますが、計画策定する時は、公立病院の改革プランを参考に策定していますか。

(市民病院)

地方独立行政法人の中期計画は公立病院改革プランとは別のものととらえていましたが、新たな改革プランを策定する際には、中期計画を改革プランと見なしてよいという指導がありました。

地方独立行政法人へ移行という大きな変革があり、移行前に計画を策定した際には予想できなかった事態もありましたが、法人としての経験を積むことで、今後は、より正確な計画を作成できると考えております。

(小林委員)

予測できない事態が起きた場合、計画の見直しを行うべきではないですか。

(事務局)

計画を変更できないということはありません。ただし、3カ年という中で見直すとなると時間が短いので事務が煩雑にある可能性があります。

(坂口委員)

病院のベンチマーキングや経営指標の公開の度合いが高い方が、受益者にとって情報量が多くなり、いいことだと思います。情報の透明度をあげることが、結果的に経営レベルを上げることにつながると思います。

(小林委員)

目標達成率が50%未満でも、評価は「3」でいいのですか。

(田中委員長)

病院の場合、大きな医療機器を買えば何千万となるので、黒字であれば病院の自己評価のとおりでいいと思います。

事務局に伺いますが、経営基盤の自立とは何処から自立するということですか。

(事務局)

地方独立行政法人になり、市の財源だけでなく病院の自主財源によって病院を運営していくということです。

(田中委員長)

市からの運営費負担金が無くても、病院運営できるようにということでは無いのですね。

(事務局)

市は法人の設立団体となるので、運営費負担金を拠出しています。

(田中委員長)

経営基盤の確立は「3」でよろしいですね。

(小林委員)

計画の前提が変わった場合の評価の仕方を、今後検討してください。

(田中委員長)

51 ページの「2 収益の確保と費用の節減」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

(柳原委員)

後発医薬品を利用すると先発医薬品と比べて高くなることがありますか。

(市民病院)

先発医薬品の特許期間が切れて、安くなった可能性があります。

(田中委員長)

後発医薬品の利用率はどれくらいですか。

(市民病院)

数量ベースで 87.4%です。

(田中委員長)

57 ページの「第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 1 施設設備等に関する事項」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

新しい医療機器の要望は多いですか。

(市民病院)

毎年2～3億の医療機器は購入しています。要求はその10倍あります。

(小口委員)

電子カルテはどれくらい使用していますか。

(市民病院)

今年で8年目になります。

(田中委員長)

業者はどこですか。

(市民病院)

東芝です。

(田中委員長)

64 ページの「第8 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項」です。この項目に関して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

ご意見よろしいでしょうか。

それでは、ひととおりの審議が終わりました。

本日の結果は、事務局で整理していただき、次回の評価委員会で確認し、意見書案について審議したいと思いますので、よろしくお願いします。

続きまして、「(4) 中期目標期間の業務実績見込みに関する評価について」事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料4-1 をご覧ください。

これは、6月30日に長野市長宛て提出された「第1期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間業務実績報告書」でございます。

また、資料４－２につきましては、法人の自己評価を一覧表にしたものでございます。

先ほどご説明しました「評価実施要領」に基づき、この報告書に添いまして、中項目ごとの評価をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

（田中委員長）

審議の進め方ですが、先ほどと同じく、長野市民病院から一括してご説明いただきます。

中期目標期間の実績については、平成 28、29 年度の実績から類推したもので、報告内容は、先ほどの平成 29 年度の報告と重なるものと思われます。従いまして、ご説明については、重複する部分は極力省き、簡潔にお願いいたします。

その後、中項目ごとに委員の皆様からご質問とご意見をいただいた上で、評価委員会としての評価点を提示するようにしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

〔委員了承〕

それでは、長野市民病院から説明をお願いします。

（市民病院）

資料 4-1 ～ 2 について説明

（田中委員長）

ありがとうございました。

全体を通して、ご質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

先ほどの平成 29 年度業務実績自己評価の「１ 市民病院が担うべき医療」の「(4) 高齢者等に配慮した医療」の評価を「５」に変更しましたので、資料 4-2 の該当箇所の修正をお願いします。

（小口委員）

新規の入院患者数が増えていますが、地域包括ケア病棟の影響はありますか。

（市民病院）

地域包括ケア病棟の影響はあまりないと思います。一般病床が減ったことにより、回転がよくなったことが入院患者数の増加につながったかと思います。

（坂口委員）

50 ページの平成 30 年度の「一般病床平均在院日数」の目標値が、「地域包括ケア病棟の除いた日数」と同じ 10.7 日とあります。地域包括ケア病棟への入院の方が入院日数が多くなると思いますが、どうして同じ日数になっているのでしょうか。

（市民病院）

地域包括ケア病棟が平成 28 年 8 月から稼働しました。中期計画の策定は 27 年度中となり、地

域包括ケア病棟の入院患者を見込んでいない計画となっております。

(小林委員)

2点確認をお願いします。1点目は、70億の現金を保有しながら、借入の早期償還ができないというのは制度としておかしいと思います。今までの制度の在り方とこれからの制度の在り方は違うので、問題提起をしていただきたいと思います。2点目は、退職引当金として30億保有しているが、共済制度のように預けることができないか確認をお願いします。ペイオフ制度により現金を持っていることは、リスクになります。また、市民病院で働いている職員にとっても、病院外で現金を預けてある方が安全であります。

(事務局)

関係機関にも確認をして、小林委員にご回答いたします。

(田中委員長)

それでは、ひととおりの審議が終わりました。

本日の結果は、事務局で整理していただき、次回の評価委員会で確認し、意見書案について審議したいと思いますので、よろしくお願いします。

以上をもちまして、本日の議事は、すべて終了しました。

委員各位からは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、事務局へ進行をお返しします。

(事務局)

委員長、ありがとうございました。

次第の「4 その他」といたしまして、事務局から今後の予定につきましてご説明申し上げます。

次回、第3回目の評価委員会につきましては、8月10日(金)の開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。また、第4回目の評価委員会につきましては、10月4日(木)の開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、只今をもちまして、平成30年度 第2回 地方独立行政法人長野市民病院評価委員会を閉会いたします。長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。